

ニュース こう見る

時のひと

京都市議会の新しい議長に就任した

なかむら さんのすけ
中村 三之助さん(62)

京都市議会と議員の役割や責務をうたった市会基本条例が4月に施行され、市会改革は新たな段階に進んだ。「口滑な議会運営に傾注するのは当然だが、基本条例がしっかり機能するように努めた」と。議長に選出された直後、変革期のかじ取り役を担う決意を議場で宣言した。

小学校教員を22年間務めた教育畑の出身。市教委で指導主事だった1998年11月、引退する自民党市議の後継として立候補するよう要請された。「3日間決めてくれ」。急な話に迷いはあったが、「市議になれば幅広いことができると決断した。」

政治家として見初められたのは、「制服姿にあこがれて」小学4年で始めたボーイスカウトでの



活躍もあった。すでに半世紀の関わりがあり、地域の責任者を務め、指導者を養成する立場だった。地元でも顔を知られており、議員としての素質が買われた。

与えられた立場で全力を尽くす「ポストにベスト」が信条だ。市議会は4月から通年議会も初めて導入され、災害発生後など緊急時に議長権限で開会できるようになった。「具体的な運用をシミュレーションし、何かあれば即時対応する」と声に力を込める。

教員から市議への転身を後押ししてくれた妻和美さんは、がんのため53歳で帰らぬ人となり、今夏で丸10年となる。「議長就任を墓前に報告に行かないと」。上京区で長女、長男との3人暮らし。

(高橋晴久)